

独立行政法人統計センターの第1期中期目標期間の実績評価

平成20年8月29日

総務省統計局

独立行政法人制度は、国とは別の法人を設立し、より良い行政サービスの提供を目指すもので、国からの事前関与・統制を極力排し、事後チェックの実施を行うことにより、弾力的・効率的で透明性の高い運営を確保するものです。

この度、独立行政法人統計センターの第1期中期目標期間が終了したため、その実績評価を総務省独立行政法人評価委員会がとりまとめ、公表しました。

評価の内容については、国民に対する政府統計データの迅速かつ多角的な提供に大きく貢献するなど、総合すると所期の目標を十分に達成するという結果になっています。

これは、統計センターの業務が複雑・高度化すると共に、公表の早期化への対応が強く求められ業務負担が増大する中、統計センターの役職員が一丸となって努力した結果であり、第2期中期目標期間においても新たな業務も含め、引き続きの確かな法人運営が行われることを期待します。

【評価結果】

AA	A	B	C	D
4	33	1	-	-

なお、評価委員会で定めた評価の考え方は、次のとおりです。

- AA : 中期目標を大幅に上回って達成
- A : 中期目標を十分達成
- B : 中期目標を概ね達成
- C : 中期目標をある程度達成しているが改善の余地がある
- D : 中期目標を下回っており大幅な改善が必要

「独立行政法人の評価の基本的考え方」(総務省独立行政法人評価委員会(平成15年8月22日改訂))による。

別添1 [独立行政法人統計センターの業務実績評価について\(概要\)](#)

別添2 [独立行政法人統計センターの業務の実績に関する全体的評価表、項目別評価総括表及び項目別評価調書](#)